



|             |                                                                                  |
|-------------|----------------------------------------------------------------------------------|
| <b>Data</b> | 2023-88                                                                          |
| 監督・脚本:      | ジェームズ・マンゴー<br>ルド                                                                 |
| 製作総指揮:      | スティーヴン・スピル<br>バーグ / ジョージ・ルーカス                                                    |
| 出演:         | ハリソン・フォード / フィー<br>ビー・ウォラー＝ブリッジ<br>／アントニオ・バンデラス／<br>マッツ・ミケルセン / ジョ<br>ン・リス＝デイヴィス |

## みどころ

1981年の第1作から40年余、今や“後期高齢者”を乗り越し、バイデン大統領以上の高齢になったハリソン・フォードが、シリーズ第5作目で“最後にして最大の冒険”に挑戦！

同シリーズではサブタイトルとされている“小道具”（？）がストーリー形成上、重要な意味を持つが、“運命のダイヤル”とは？それは別名“アルキメデスのダイヤル”とも呼ばれていたが、ナチスドイツの科学者も探し求めていたそれは一体ナニ？それを入手すれば一体何ができるというの・・・？

おっと、もう1人、インディが名付け親になっている、旧友の娘もそれを探し求めていたから、本作はいわば“おじいちゃんと孫娘”が協力し、いかにして敵よりも早くそれを入手するかを巡る冒険とロマンの旅になる。

他方、あなたは紀元前に起きたシラクサの戦い（包囲戦）を知ってる？また、そこでアルキメデスが科学者としてどんな役割を果たしたかを知ってる？インディと共にする冒険の旅の中で、あなたも一緒に紀元前のシラクサの戦いの時代にタイムスリップしてみるのも一興だ。しかし、そこでの滞在（争い）が下手に長引くと、いかに“アルキメデスのダイヤル”を使っても現代に戻れなくなるので、ご注意を！

## ■□■インディ・ジョーンズ最後にして最大の冒険が公開！■□■

“伝説の男”ハリソン・フォードが定年退職を迎える70歳にして、“運命のダイヤル”とも言うべき“アルキメデスのダイヤル”のありかを探すべく、旧友の娘ヘレナ・ショウ（フィービー・ウォラー＝ブリッジ）と共に、最後にして最大の冒険の旅へ！

『インディ・ジョーンズ』シリーズは、第1作『レイダース／失われたアーク＜聖櫃＞』

(81年)、第2作『インディ・ジョーンズ／魔宮の伝説』(84年)、第3作『インディ・ジョーンズ／最後の聖戦』(89年)、第4作『インディ・ジョーンズ／クリスタル・スカルの王国』(08年)『シネマ20』14頁)を経て、2023年7月公開の本作で、遂に完結！トム・クルーズは、2022年5月に公開されて大ヒットした『トップガン マーヴェリック』(20年)『シネマ51』12頁)に続いて、現在『ミッション：インポッシブル デッドレコニング PART ONE』(23年)が公開されたが、それと同時に本作も公開！ハリウッドの50年、60年を代表する両作を同時に鑑賞できたことに感謝しつつ、さあ、『インディ・ジョーンズ』シリーズ第5作をいかに楽しめば・・・？

## ■数学者アルキメデスはいつ、どんな役割を？■

『永遠の0』(13年)『シネマ31』132頁)で「ゼロ戦もの」に挑戦した山崎貴監督が、念願の「大和もの」に挑戦したのが『アルキメデスの大戦』(19年)『シネマ45』78頁)だった。“アルキメデスの原理”で有名な古代ギリシャの数学者アルキメデスが、なぜ、数学で戦争を止めようとした男の物語のタイトルに？それについては私の評論をしっかりと読んでもらいたい、本作のテーマとなる“アルキメデスのダイヤル”とは一体ナニ？それは、本作後半からクライマックスにかけて展開する、時空を越えて、現代からギリシャ・ローマ時代にタイムスリップしていく物語の中で、あなた自身の目でしっかり確認してもらいたい。

他方、ナチスドイツ時代にヒトラーが英国本土を空襲するためのロケット弾の開発に精を出し、実戦寸前まで進んでいたことはよく知られているが、それが成功しなかったのは一体なぜ？それは、本作でインディの“敵役”として登場する、ドイツの科学者ユルゲン・フォラー(マッツ・ミケルセン)に言わせると、「ヒトラーが無能だったため」らしい。ナチスドイツ時代にロケット弾の開発に従事し、終戦後にアメリカに移住してアメリカのために開発を行ってきたユルゲン・フォラーは、実在の人物ヴェルナー・フォン・ブラウンをヒントに作られたキャラクターだが、彼もヘレナやインディと同じように“アルキメデスのダイヤル”を探し求めているらしい。しかし、それは一体なぜ？

## ■バイデン大統領も高齢だが、インディも既に80歳！■

本作と同時に公開されたのが、トム・クルーズ主演の人気シリーズ第7作目となる『ミッション：インポッシブル デッドレコニング PART ONE』(23年)。トムは若き日の大ヒット作を36年ぶりに復活させた『トップガン マーヴェリック』(20年)『シネマ51』12頁)を大ヒットさせたが、彼の“売りモノ”のアクションはまだまだ健在だ。1954年生まれのジャッキー・チェンが還暦を越えてなおアクション俳優としての矜持を保っていたのと同じように、1962年生まれのトム・クルーズも還暦後、売りモノの“バイクアクション”をはじめ、その身体能力に磨きをかけており、衰えるところがない。他方、2020年11月に78歳で大統領に就任したバイデンが、2024年の大統領選挙にも立候補し当選すれば、アメリカには82歳の大統領が誕生することになる。しかし、

それって大丈夫なの？

『インディ・ジョーンズ』シリーズが本作でやっと5作目と少ないのは、同シリーズの“生みの親”であるスティーブン・スピルバークとジョージ・ルーカスらの企画が容易に進まなかったという事情があるが、そこで最大の問題はハリソン・フォードの年齢だ。つまり、前作『インディ・ジョーンズ／クリスタル・スカルの王国』で66歳だった彼は、本作公開の2023年には80歳を迎えているわけだ。バイデン大統領は、時々見せる“不規則発言”が心配されている上、歩行時に転びそうになる姿が時々報道されているが、米国の大統領がこれでいいの？そんな心配は“西側民主主義国”すべての国民が持っているものだ。

しかして、80歳のおじいちゃんになったハリソン・フォードが『インディ・ジョーンズ』シリーズ最後の本作で見せる“最大の冒険”とは一体ナニ？

### ■□■舞台はナチス時代から1969年へ！注目の小道具は？■□■

本作冒頭の時代は第2次世界大戦中、ナチスドイツの時代だ。その当時はまだまだ若いインディがナチスの手からロンギヌスの槍を取り戻すべく奮闘するシークエンスから始まる。しかし、こりゃ一体ナニ？そんな問題意識を観客に植えつけた後、スクリーン上の時代は一気に進み1969年になるが、そこでは70歳になり定年退職を迎えるインディが寂しげに教壇に立つ姿が映される。学生に何を訴えても反応は全くなく、かつてさまざまな冒険の旅を繰り広げてきたインディも今や“老兵は去り行くのみ”状態になっているらしい。

そんな人生の黄昏時のインディの運命を一気に変えたのは、インディが名付け親となっている旧友の娘ヘレナ（フィービー・ウォーラー＝ブリッジ）の登場だ。“アルキメデスのダイヤル”のありかを探っているというヘレナの言葉を聞いたインディは、ヘレナと共にそれを探し求める旅に出ることに。しかして、“アルキメデスのダイヤル”とは一体ナニ？それが手に入れば一体何ができるというの？

### ■□■NASAで働くナチス残党の野望は？■□■

1969年といえば、私が大学2回生の時で、日本の学生運動が最高潮に達していた時代。アメリカでは1960年代後半から続いていたベトナム戦争反対と黒人の公民権運動が盛り上がっていたが、他方で、熾烈を極めていたソ連との宇宙開発競争を勝ち抜くために、アポロ計画に全力を注いでいた。

そんな時代状況下、ナチスの残党でありながら、今はNASAの研究者として働いているのがフォラーだ。前述の通り、このフォラーは、一方では、第2次世界大戦中、英国へのロケット弾攻撃が成功しなかったのは「ヒトラーが無能だったため」と批判しながら、他方では、懸命に“アルキメデスのダイヤル”を探し求めていた。そのため本作中盤は、インディ×ヘレナ連合軍 VS フォラーの間で、“アルキメデスのダイヤル”を巡る争奪戦が始まることになるので、そこに見るインディ・ジョーンズとヘレナの冒険の姿をタブプリと

楽しみたい。

## ■□■ナチス時代にタイムスリップ！ところが実は紀元前に！■□■

タイムスリップものは面白い。それが私の持論だが、その根拠は、ずっと昔に観た『戦国自衛隊』（79年）がメチャ面白かったことと、最近観た中国映画、『こんにちは、私のお母さん』（21年）『シネマ50』（192頁）がメチャ良かったためだ。去る7月21日に観た『こんにちは、母さん』（23年）は、山田洋次の監督90作目、女優・吉永小百合の出演123作目の映画、そしてまた、山田洋次監督が90歳を超えて、女優・吉永小百合が80歳近くになっての映画だった。同作は、母親（吉永小百合）、一人息子（大泉洋）、孫（永野芽郁）の3世代構成のバランスが素晴らしかった上、『卒業』（67年）の名シーンを彷彿させる（?）、吉永小百合扮する“母さん”の“老いらくの恋”の行方が興味深かった。また、隅田川沿いの下町、向島を舞台とした人情物語も感動的だった。

このように、同作は松竹映画の“大船調”の伝統を正しく受け継ぐ山田洋次監督作品だったが、中国の『こんにちは、私のお母さん』は、異例の“お笑い芸人”出身ながら「世界最高の興行収入を獲得した女性監督」の称号を手にした賈玲（ジア・リン）の手による“タイムスリップもの”だった。『戦国自衛隊』のタイムスリップは、何とも奇想天外かつ骨太なストーリー展開の中、タイトル通り、現行憲法下で“鬼子”扱いされている自衛隊が戦国時代にタイムスリップする中で大活躍を見せたが、『こんにちは、私のお母さん』では、2001年の交通事故で死んでしまったはずの主人公がタイムスリップしたのは、若き日の母親の元、そして中国が女子バレーに熱中していた1981年だった。

他方、本作では、そのありかを巡って争奪戦が繰り広げられた小道具“アルキメデスのダイヤル”が、ヒトラーが犯した失敗を克服し、ナチスドイツが連合国に勝利を収めるために、フォラーがナチスの時代にタイムスリップするためのダイヤルだったことが徐々に判明していくから、それに注目！しかして、このアルキメデスのダイヤルが“カチッ！”とセットされると、インディとヘレナ、そしてフォラーらを乗せた飛行機の下海には、ナチスドイツの大艦隊が！？インディもフォラーもそう思ったが、それらの軍艦はナチスドイツのものではなく、何とアルキメデスが生きた紀元前214年のギリシャ・ローマ時代に起きた「シラクサの戦い」に集結した軍艦だったから、アレレ、アレレ・・・。

## ■□■シラクサの戦いを知ってる？アルキメデスの役割は？■□■

私はギリシャ・ローマ時代の“戦争モノ”が大好き。とりわけ、元老院時代のローマの実力者となったシーザーとエジプトの女王クレオパトラとの恋を基調とし、シーザー暗殺後にローマの正当な後継者になったオクタ비아ヌスと、ローマ人ながらクレオパトラの愛人としてエジプト軍を率いたアントニウスとの戦いを、壮大なスケールで描いた映画、『クレオパトラ』（63年）は何度見ても面白い映画だった。さらに、ローマ史においては、ローマとカルタゴが死闘を繰り広げた第一次ポエニ戦争（紀元前264ー紀元前241年）と、第二次ポエニ戦争（紀元前219ー紀元前201年）の物語が面白いし、第二次ポエ

ニ戦争における、シラクサを舞台としたシラクサの戦い（包囲戦）での天才アルキメデスの大活躍もメチャ面白い。

シラクサの戦いの舞台になったのは、現在の南イタリアとシチリア。シラクサはギリシャの植民都市として栄えていたが、第一次ポエニ戦争においてローマはシチリア島全土を支配したため、シチリアはローマ紀元前241年にはローマ最初の海外領土（シチリア属州）とされてしまった。しかし、シラクサ（のみ）はローマの同盟国として独立を保ち、繁栄を続けていた。ところが、次第にローマの威嚇的姿勢のためにシラクサとの対立が深まり、紀元前214年に第二次ポエニ戦争が始まることになった。シチリア東岸にあるシラクサは堅牢な城塞都市として知られているが、さあ、第二次ポエニ戦争におけるシラクサの防衛戦（包囲戦）の展開とその結末は？

アルキメデスは数学者としてだけではなく、後のルネサンス期に大活躍する天才レオナルド・ダ・ヴィンチと同じような科学者としても有名だ。そしてまた、シラクサの防衛担当者の中にいた彼はシラクサの戦いにおいて、①アルキメデスの鉤爪、②アルキメデスの投石機、③アルキメデスの熱光線、を発明し、実戦で使用した科学者としても有名だ。これらの、当時としては画期的な“大量破壊兵器”は映画の大スクリーンに見栄えがするため、数々の映画の中で（その修正型が）使われてきたが、さて本作では？本作は『インディ・ジョーンズ』シリーズの最終作だから、シラクサの戦いを描くことが目的ではないし、インディもフォラーも間違っただけでタイムスリップしてきただけだから、早くここから脱出しなければ1969年の現代に戻れなくなってしまう。したがって、インディとフォラーとの宿命の対決は忙しく、駆け足にならざるを得ない。しかし、インディ最後にして最大の冒険の結末は如何に？それは、あなた自身の目でしっかりと！

2023（令和5）年7月28日記